

## 国語分科会における審議状況と今後の課題

### 1. これまでの審議状況

- 文部科学大臣から文化審議会への諮問「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」（平成17年3月30日）を受け、国語分科会及び漢字小委員会において、常用漢字表の見直しについて審議。平成22年5月19日の国語分科会において、「改定常用漢字表」に関する答申案について了承。また、平成23年1月25日の国語分科会において、平成22年11月30日の内閣告示など、新しい「常用漢字表」に関する答申後の動きについて報告を受け、今後の周知の在り方などについて議論。
  
- 日本語教育小委員会においては、前期に引き続き「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容についての検討を深め、平成22年5月19日の国語分科会において、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について了承。
  
- また、日本語教育小委員会においては、平成22年7月以降、「標準的なカリキュラム案」の活用及び指導方法について検討を行い、平成23年1月25日の国語分科会において、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」について了承。

### 2. 今後の課題

- 国語の改善及びその普及に関しては、常用漢字表の見直しを終えたところであり、次期分科会においては、それに次ぐ新たな調査審議事項について検討する予定。
  
- 日本語教育小委員会においては、「標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」を踏まえた教材例を作成するとともに、「生活者としての外国人」の日本語能力の評価、日本語指導者の指導力の評価について検討を行う予定。